

第38回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和元年10月15日（火）11:02～11:12

2. 場 所 中央合同庁舎8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府原子力委員会
岡委員長、佐野委員、中西委員
内閣府原子力政策担当室
竹内参事官、笠谷参事官補佐

4. 議 題

- (1) 岡原子力委員会委員長の海外出張報告について
- (2) その他

5. 配布資料

- (1) 岡原子力委員会委員長の海外出張報告について

6. 審議事項

(岡委員長) それでは、時間になりましたので、ただいまから、第38回原子力委員会を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目が私の海外出張について、二つ目がその他です。

本日の会議は11時30分を目途に進行させていただきます。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) それでは議題1でございます。

先日の原子力委員会でも報告しておりましたけれども、9月に岡原子力委員長がIAEA総会、及びフランスの原子力関係施設の訪問をされております。

本日は、その出張の結果について、事務局より報告をいたします。

それでは事務局からよろしくをお願いします。

(笠谷参事官補佐) では、御報告させていただきます。

資料1をごらんください。

岡委員長の海外出張報告でございますが、出張先は、オーストリアのウィーンとフランスのビュールとシェルブールでございます。

出張期間は9月15日から22日に行かれております。

主な渡航目的といたしましては、ウィーンの方はウィーンで開催された第63回のIAEA総会に出席され、その際にIAEAの幹部とか各国の原子力関係者との意見交換を行うこと、またフランスの方は、ビュールの方はANDRAのビュール地下研究所を視察すること、シェルブールにおいては、ラ・アグの再処理工場の視察、及び関係者との意見交換を行うということでございました。

あと4ポツの主要日程、日程の方はごらんとおりでございます。

それぞれの出張の概要でございますが、IAEA総会の方ですが、まずIAEA総会に先立ちまして、7月に天野事務局長がお亡くなりになっておられます。それを受けまして、IAEAでは事務局長がお亡くなりになりましたので、事務局長代行としてフェルータ氏——この方はルーマニアの方なのですが、フェルータ氏を事務局長代行として、IAEAは選任しております。

それを踏まえてなのですが、第63回の総会は、メキシコのアリシア・マシュー女史を議長に選んで開催されました。代行であるフェルータ事務局長代行が、原子力平和利用のためのIAEAの役割の重要性などを説明されております。

また、総会の開会に当たりまして、国連事務局長のメッセージが紹介されました。

そして我が国は、天野事務局長の追悼決議が提出されたのですが、我が国の政府代表として出席しておりました竹本直一大臣の方が政府を代表してステートメントを発言されております。また、その後、各国の政府代表演説が行われております。

特に主な国の発言といたしましては、米国はペリー長官が演説の方を発言されまして、トランプ大統領の米国は北朝鮮とイランの核の脅威への対応を続けると、IAEAの役割が重要であり、核不拡散条約は核兵器の拡散を防いできた等のメッセージを紹介し、核不拡散と原子力平和利用の重要性について述べておられます。

我が国の竹本直一大臣の政府代表演説の中身といたしましては、北朝鮮の核問題ですとか、イランの核合意の状況、また日本の原子力政策についての紹介等を行っております。

また各国の政府演説の原稿については、IAEAのホームページに掲載されておりますのでごらんください。

次でございますが、各国、要人との会談の状況でございますが、I A E A 総会の合間を縫って、竹本直一大臣は米国のゴードン・ハガティ国家安全保障局長官、これは安全保障局長官ではありますが、これは米国のエネルギー省の部局でございます。

また I A E A の方は、先ほど言いましたフェルータ I A E A 事務局長代行と会談しております。またフランスの方は、ジャックフランス原子力・代替エネルギー庁長官と行っております。

これは大臣との会合でございますが、別途、岡委員長も I A E A の原子力発電部の幹部ですとか、また総会に参加しておりました英国ビジネス・エネルギー産業戦略省の方、またインド原子力委員会の方、中国原子力庁の方と面談をされております。

続きましてフランス訪問でございますが、その後、委員長の方はフランスの方を視察されて、ビュールの方はフランスの放射性廃棄物管理機関 A N D R A の地下研究所を視察され、関係者と意見交換をされております。

また、オラノのラ・アークの再処理工場と U P 2 - 4 0 0 の再処理工場の廃止措置を視察されて、関係者と意見交換をされております。

概要の方は以上であります。

(岡委員長) ありがとうございます。

それでは質疑を行います。佐野委員からお願いします。

(佐野委員) ありがとうございます。

日本での報道を見ていますと、当時、天野事務局長が亡くなられた後の I A E A、韓国の第一次官の発言、それを巡る答弁権の行使が大きく報道されたのですが、実際は北朝鮮の核問題やイランの核問題が引き続き大きな話題だったと思います。

それから総じて、竹本大臣が日本の原子力政策について述べられて、日本のプレゼンスを示されたことは非常に結構なことだったと考えます。

それから、大臣が行われた二国間会談、原子力委員長が行われた二国間会談、これも中身はかなり充実したものであったというようでございます。これも大変よかったと思います。

それから、岡委員長の訪問についても、大変有意義なものであったとレポートされており、事務局含めて、岡委員長も大変お疲れさまでございました。ありがとうございます。

(岡委員長) ありがとうございます。

中西先生からは。

(中西委員) 特になのですが、どうもいろいろ、いろいろな情報を頂きまして、ありがとう

ございました。

ただ、一つだけ質問で、事務局の書き方なのですけれども、I A E A総会のところの5の3行目、追悼決議が提出されということで、追悼ではなくて、これは決議ということなのでしょう。ちょっと教えてください。

(笠谷参事官補佐) これは追悼決議の方が上がっておりまして、正確に申し上げますと、追悼決議案を関係国というか、南アフリカ、ドイツ等から出ておりまして、それに対して、竹本大臣の方から追悼決議に対するステートメントということで、追悼決議案に対して謝意を、感謝を申し上げるというような話をされております。それで採択されて。

(竹内参事官) 要は決議案が提出されて、決議として採択されたと、追悼。そういうことでございます。

(中西委員) ありがとうございます。

(岡委員長) ありがとうございます。

私の報告ですが、事務局にアレンジをしてもらいました。ありがとうございます。

フランス訪問の方ですが、ここに書いたとおりなのですが、メールマガジンに順次、出張の内容の報告を書くつもりでございます。見ていただけたらと思います。

フランスは非常に、着実にやっているということで、非常に印象的でした。

A N D R Aの地下試験場はフランスの東部のビュールにあつて、そこで地層処分のための技術試験を行っています。オラノのラ・アグの再処理工場はシェルブールというドーバー海峡に近い方にあるわけですが、非常に組織的に効率よく運営されていおります。

それからもう一つは、両方ともそうなのですが、特に再処理についてそうなのですが、非常に研究開発から実用のところまでよくうまくつながっているなというところが感心しました。

地層処分の研究開発について、私は誤解していたのは、フランスの原子力庁は、日本で言えば、フランスのC E A、原子力・再生エネルギー庁が地層処分の研究開発の主体になっているのかと思っていたら、そうではなくて、フランスの地質研究所とか大学とかに委託をして、いろいろ研究や開発をやっている。C E Aはやっていないわけではないのですが、ソースタームとインベントリーを担当しているということで、そういう研究開発のところは、フランス全体を専門に応じてうまく利用している。こういうことを実施方法も非常に参考になりました。

以上です。

それではよろしいでしょうか。

(佐野委員) IAEA総会そのものの報告はまた別途、外務省からあるのでしょうか。

(竹内参事官) 別途まとめて外務省からする予定にしております。また、日程については調整次第、設定いたします。

(岡委員長) それではありがとうございました。

議題1については以上です。

議題2について、事務局からお願いします。

(竹内参事官) それでは今後の会議予定でございます。

次回第39回原子力委員会の開催につきましては、来週は火曜日が祝日になっており、21日月曜日に開催いたします。21日の11時から12時までを予定しております。開催場所は8号館6階623会議室、議題は調整中で、後日、原子力委員会ホームページ等の開催案内をもってお知らせいたします。

(岡委員長) ありがとうございます。

そのほか、委員から何かご発言はございますでしょうか。それでは御発言がないようですので、これで本日の委員会は終わりにします。ありがとうございました。